

体罰禁止の法改正後の罰によらない子育て 「ポジティブ・ディシプリン」普及強化事業 認定ファシリテーター養成へ向けた実地研修、およびアンケート結果のご報告

報告期間 2021年4月1日～2022年3月31日
文責：NPO 法人きづく ポジティブ・ディシプリン日本事務局

2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた2020年度計画を引き続き執行・完了する1年となった。ポジティブ・ディシプリンは、養育者が罰によらない子育てへ行動変容を起こすための、子どもの権利の理念と科学的根拠に基づくプログラムであることから、養育者が全9回の対面式セッションに通い、お互いの学びから促進する力学を活用する構成となっている。世界的パンデミックの影響拡大により、一部プログラムのオンライン化検討への期待が高まり、開発者らがカナダ国内でのパイロット実施にも踏み切ったが、オンライン化への移行は現段階では時期尚早との結論が出た。したがって、日本国内でも、2021年度と同様に、定員数の削減、手指消毒の徹底、備品の共有使用の制限、換気の徹底などの感染症対策を施し、対面式のプログラム実施とした。

以下、当団体が、プログラム・ファシリテーター養成を目的として実施した標準プログラムの実地研修に関する報告をする。各実地研修へは、ポジティブ・ディシプリン日本事務局に所属するカントリー・トレーナーが入り、研修生へ資格取得のために必要な養成活動を行なった。本助成事業では、2021年4月～2022年3月までに、延べ研修生5人が実地研修へ臨み、うち3名に対して、認定プログラム・ファシリテーターの資格を認定することができた。

1. 標準プログラム/実地研修

年	月日	場所	被養成者数	プログラム参加者数
2021	5-7月	東京都A区	養成完了2人	6人
2021	9-12月	東京都A区	養成完了1人	10人
2022	1-3月	東京都B区	養成継続2人	8人

標準プログラムの実地研修は、標準プログラムのプログラム・ファシリテーターになるための養成研修（5日間）を修了した研修生を対象に実施した。実地研修の対象者は、標準プログラム（18時間）をトレーナーの伴走のもと実施し、養育者の行動変容を促すことのできるファシリテーターとしてのスキルを得ることを目指す。2021年度に行われた上記3ヶ所の実地研修では、研修生5名を対象に行った。本助成事業では、2014年（東京開催）、2015年（東京開催）、2016年（東京開催）、2019年（東京開催）、2021年（北九州開催）で実施されたファシリテーター養成研修へ参加した研修生を招聘することで混合チームの編成が可能となったことから、長期化に陥っていたファシリテーター養成において、極めて有意義な実地研修を実施し、資格認定まですることができた。

各標準プログラムの様子は、以下の通りである。なお、いずれの実地研修も新型コロナウイルス感染症対策のため、定数を16名から減員して募集を行った。全てのセッションにおいて、受付時の検温と体調確認を行い、また手指消毒の徹底をした。また会場設営においても、席配置の考慮、部屋の換気に努めた。（なおB区では感染症拡大に伴い、第2週から、より広い部屋への会場を変更した。）

【プログラムの様子】

〈A区〉本助成事業により、東京都A区における標準プログラム実施は3回目となった。このように、同じ地域で継続

的に実施できることは、罰によらない子育ての普及の鍵である「地域の団体による持続的なプログラム実施の好事例」としても、意義深い活動となった。

5-7 月期：コロナ禍の難しい運営ではあったが、主催団体の尽力により、無事プログラム全 9 回を終了することができた。参加者は 6 名であったが、中でも工夫を凝らして参加者同士の学び合いの促進に努めた。参加者のなかには、自らの子育てに対してネガティブな印象を語る場面があったが、ファシリテーターチームからは、ポジティブ・ディシプリンの考え方をいつでも取り入れ始めることができること、またいつでも遡って子どもの発達モデルをやり直せることなどを伝え続けた。

9-12 月期：参加者数が主催団体の尽力により 10 名にのぼったことから、個人・グループ・全体で行うワークの力学を用いたファシリテーションが可能となった。参加者らは 2 ヶ月にわたるプログラムを通じ、それぞれ自らの子育てをふりかえり、また他の参加者の意見や考えを聞くことで大きな刺激を与え合っている姿が見られた。また、セッション 8 のふりかえりでは、「身近な人にこのプログラムを受けてもらいたい」「プログラムに参加して自分の子育てでできていたこともあったと確認できてよかった」などの声があった。プログラムの最終回では、主催団体からポジティブ・ディシプリンの参加者を対象とした今後の企画などの呼びかけもあり、参加者らがとても楽しみにして解散した様子が見られた。

〈B 区〉本助成事業により、東京都 B 区では初開催の標準プログラムを実施することができた。

1-3 月期：参加者の募集では、NPO 団体のメルマガや子育て支援者ネットワークを介して告知活動を行った。その結果、多地域（神奈川県や東京都市部や B 区以外）からの参加者を迎えることができた。また、都内では初の土曜日の午後の開催となったことが影響を及ぼしたのか、父親の参加があったことも大きな成果であったと振り返る。コロナ禍ではあったが、出席率は 89% だった。欠席理由は、感染症関連または子どもの卒園式のためであった。参加者は非常に積極的で、多くの質問が飛び交い、お互いの経験共有やものごとの捉え方の違いなどについて話し合う機会が多かった。また、セッション 8 のふりかえりでは、「ここでは自分の考えが話せた」「聞いてもらえる場所だったので安心・安全だった」などの声があった。プログラムの最終回までに、参加者からは子どもが成長するにつれて課題が変わるのでまた受けたい、またポジティブ・ディシプリンの「考え方」についてこれからも繰り返し確認したいとのことから、「このプログラムをもう一度受けることは可能か」「このプログラムの続きを実施してもらえないか」などリクエストの声があった。また多地域からの参加メンバーではあったものの、参加者同士の交流も自然発生的に始まっていた。

2. 標準プログラム効果測定

本助成事業では、2020 年 4 月～2022 年 3 月に実施した標準プログラムについて、国際標準とされている効果測定をおこなった。分析の対象となったのは、本事業内で実施された以下の標準プログラムである。プログラム毎の分析結果は、非公表とすることが義務付けられているため結果の詳細については、日本財団への提出までとさせていただきます。

（プログラム毎の分析は、別添 1～6 を参照）

年	月日	場所	プログラム参加者数	分析対象者数
2020	9-12 月	東京都 A 区	6 人	5 人
2020	9-12 月	宮城県 A 市	10 人	9 人
2021	1-3 月	宮城県 A 市	10 人	8 人
2021	5-7 月	東京都 A 区	6 人	5 人
2021	9-12 月	東京都 A 区	10 人	9 人

2021	9-12月	愛知県 A 市	8人	7人
2022	1-3月	東京都 B 区	8人	準備中*
2022	1-3月	東京都 C 区	9人	準備中*

* これらの2プログラムは、報告書提出時現在、カナダの開発者へ分析依頼準備中のため今回の提出分に含めていない

なお、本助成事業で実施したプログラムの効果に関する統合分析、および2つの標準プログラムの測定結果については、2022年度上半期までに報告させていただく。

3. 地域における勉強会（事務局認証版 2 時間、および 2.5 時間版）

ポジティブ・ディシプリンのプログラム普及活動においては、18 時間にわたる標準プログラムの導入を目的として、事務局認証版が規定されている。事務局認証版には養育者を対象とした2時間版と支援者を対象とした2.5時間版がある。いずれも日本独自で展開するものであることから、その実施妥当性と効果検証のため、アンケート実施が義務付けられている。本助成事業(ここでは2020年4月～2022年3月)では、事務局認証版として2時間版が7回、2.5時間版が1回実施された。うち、事務局認証版のファシリテーター養成を兼ねたのは3回(宮城県A市、B市、および東京都B区における実施分)であった。よって事務局認証2時間版のファシリテーターが3名、2.5時間版のファシリテーターが1名誕生した。

以下は一般社団法人ポジティブ・ディシプリン コミュニティによって実施されたものを含め、本助成事業内で実施された事務局認証版のアンケートの集計結果である。なお、今回の集計作業では、すべての回からのアンケート回収がかなわなかったため、回答者数は40人である。

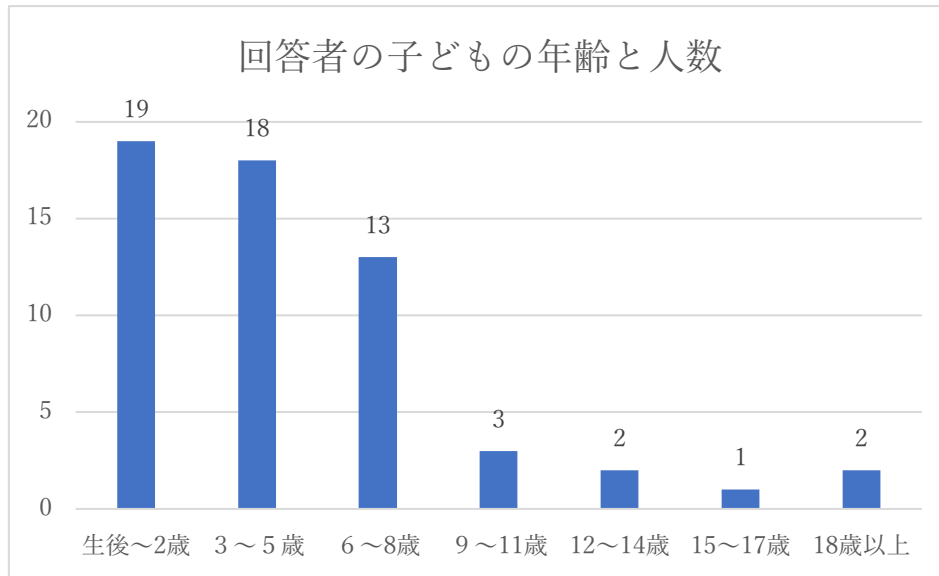
■ 事務局認証 2 時間版アンケート集計結果

2時間版は、以下を基本として実施される(事務局発行のガイドラインより)。質問票は、別添7を参照。

- 目的: ポジティブ・ディシプリン標準プログラムの導入を視野に入れた自治体や地域社会において、プログラムの概要を養育者へ共有することで、標準プログラムへの関心を高める(標準プログラムが目指す養育者の行動変容を目的としないことに留意)
- 内 容: ポジティブ・ディシプリン日本事務局により定められたプログラム案に基づく
- 教 材: ポジティブ・ディシプリン日本事務局の指定する2時間版 PPT スライド/配布資料/アンケート
- 対 象: 0歳から18歳までの子どもを育てている養育者
- 時 間: 120分
- 定 員: 最少16名～最大24名(グループワークの機能を担保するため)
- 実施者: 2時間版の現地研修を終えた認定プログラム・ファシリテーター、またはカントリー・トレーナー

- 回答者の子どもの年齢層 (n=40)

回答者の子どもの年齢とその人数は以下の通りである。

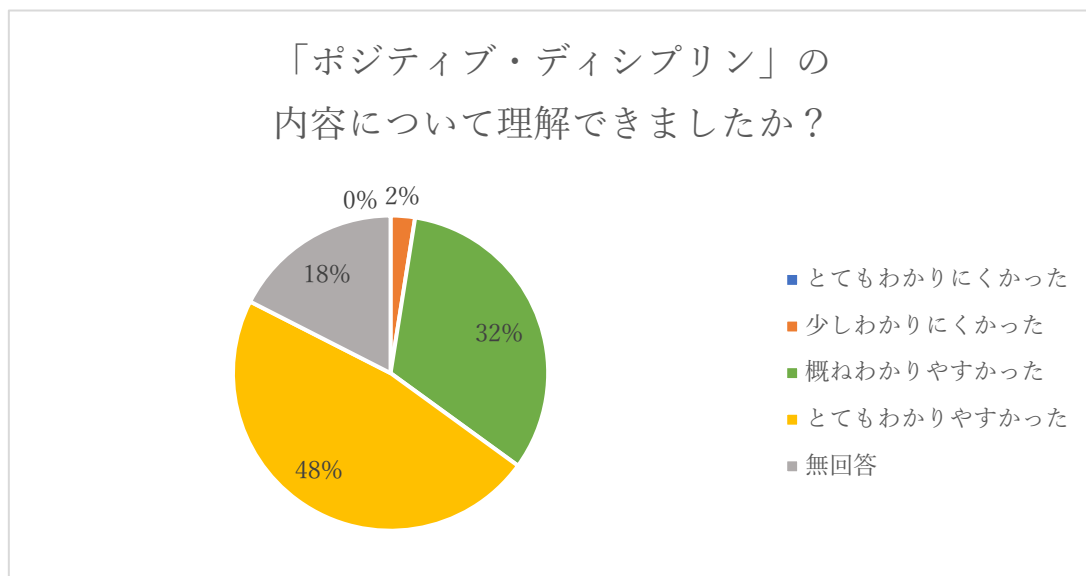


(単位：人)

ポジティブ・ディシプリンは、0歳～18歳未満の子どもの対象とするプログラムである。2時間版においても、参加した養育者の育てる子どもの年齢層は、乳幼児から思春期までだった。しかし、本助成事業における事務局認証2時間版の参加者の子どもは、低年齢層が多いことがわかる。この結果から、ポジティブ・ディシプリンの強みを活かすためにも、今後は参加者応募の方法などを再検討する必要性が示唆された。

● 設問1：

- ① 「ポジティブ・ディシプリン」の内容について理解できましたか？←
 (とてもわかりやすかった・概ねわかりやすかった・少しわかりにくかった・とてもわかりにくかった)



2時間版は18時間かける標準プログラムを凝縮することにより、養育者にプログラムの概要を共有することを目的としている。本来、時間をかけて進めるワークを駆け足で体験する内容となっているが、「とてもわかりやすかった」「概ねわかりやすかった」の回答が80%を占めた。また、「少しわかりにくかった」とした回答が2%あったことについては、2時間版を実施するファシリテーターとの実施改善へ向けた検討が必要となる。なお、18%が無回答となっていること

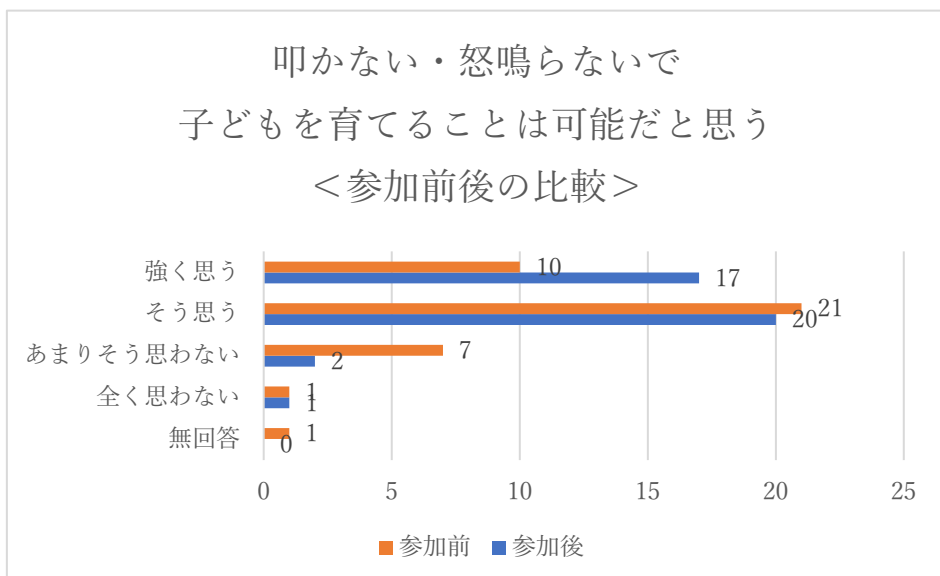
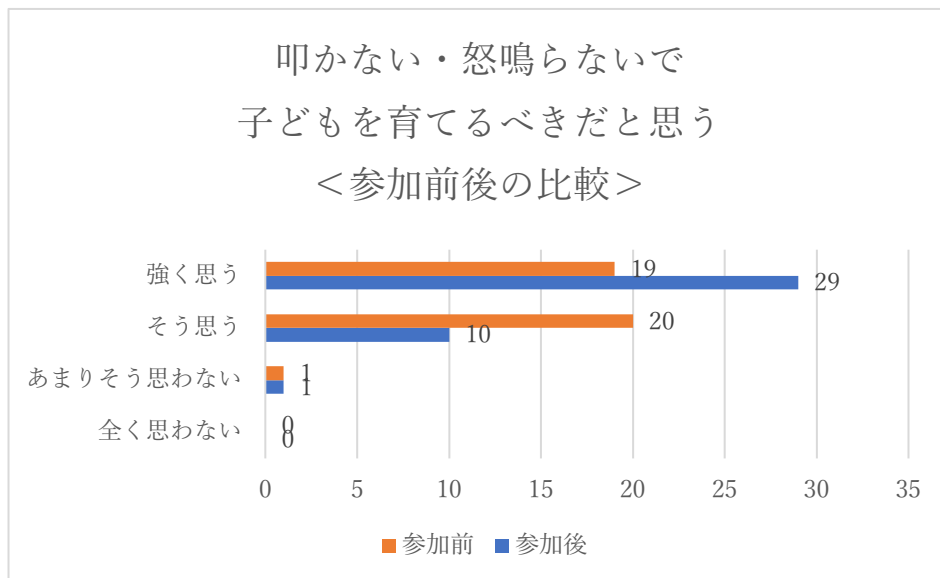
については、今後、質問票の記入欄の改善により回答漏れを防ぐことに努めたい。

● 設問 2 :

② 以下の 2 つの設問について、プログラム参加前・参加後のあなたの考えに○をつけてください。←

2) -1 参加前のお考えについてお聞きます。←				
叩かない・怒鳴らないで 子どもを育てるべきだと思う←	強く← そう思う←	そう思う←	あまり← そう思わない←	全く← 思わない←
叩かない・怒鳴らないで 子どもを育てることは可能だと思う←	強く← そう思う←	そう思う←	あまり← そう思わない←	全く← 思わない←
2) -2 参加後のお考えについてお聞きます。←				
叩かない・怒鳴らないで 子どもを育てるべきだと思う←	強く← そう思う←	そう思う←	あまり← そう思わない←	全く← 思わない←
叩かない・怒鳴らないで 子どもを育てることは可能だと思う←	強く← そう思う←	そう思う←	あまり← そう思わない←	全く← 思わない←

(単位：人)



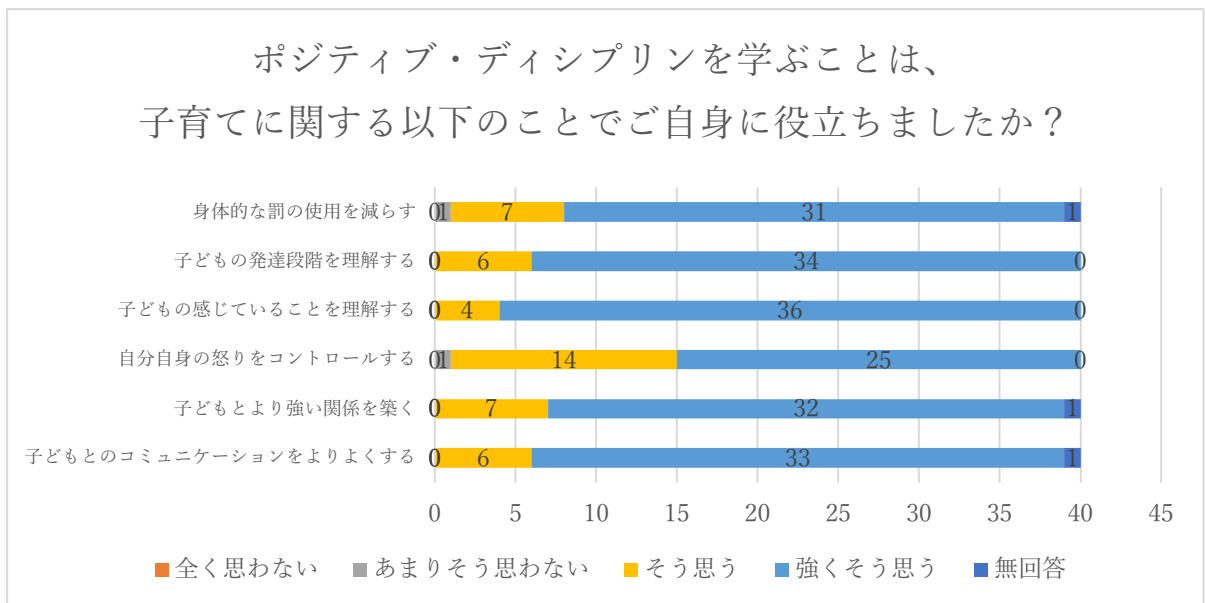
設問 2 では、事務局認証 2 時間版の参加前と参加後を比較した。「たたかない・怒鳴らないで子どもを育てるべきだと思う」、「たたかない・怒鳴らないで子どもを育てることは可能だと思う」の 2 問について、いずれも「強くそう思う」と「そう思う」が、参加後に回答数が増加した。また「可能だと思う」については、参加前には、7 人が「あまりそう思わない」と回答していたが、参加後には 2 人となった。これらの結果から、（母数が少ないため一般化は難しいことを前提としながら）2 時間版は、行動変容を目的とすることは叶わないとしても、参加者の意識の変容に働きかけることを示唆していると考えられる。

● 設問 3 :

③ 「ポジティブ・ディシプリン」を学ぶことで、子育てに関する以下のことでご自身に役立ちましたか？
 あてはまる数字に○をしてください。 1=強くそう思う、2=そう思う、3=あまりそう思わない、4=全く思わない

- 身体的な罰の使用を減らす (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4)
- 子どもの発達段階を理解する (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4)
- 子どもの感じていることを理解する (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4)
- 自分自身の怒りをコントロールする (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4)
- 子どもとより強い関係を築く (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4)
- 子どもとのコミュニケーションをよりよくする (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4)

(単位：人)

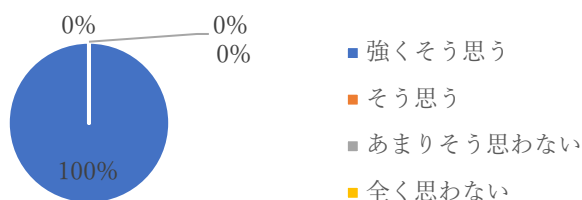


事務局認証 2 時間版アンケートの設問 3 は、標準プログラムの効果測定と同一の設問としている。6 項目のうち、4 項目（子どもの発達段階を理解する、子どもの感じていることを理解する、子どもとより強い関係を築く、子どもとのコミュニケーションをより要する）では、ポジティブ・ディシプリンを学ぶことが役に立ったかとの問いに対して、「強くそう思う」「そう思う」と回答している。一方、行動変容を伴う 2 項目（身体的な罰の使用を減らす、自分自身の怒りをコントロールする）では、「あまりそう思わない」とした回答者がいた。中でも、「自分自身の怒りをコントロールする」の項目については、「そう思う」とした回答者が他項目と比較し 2 倍以上多いことが判る。今後、回答数が増えた段階で、ポジティブ・ディシプリンが養育者の何に役立つかを改めて検証する必要があると言える。

● 設問 4 :

- ④ 叩かない・怒鳴らない「ポジティブな子育て」を広げるための活動は、これからの社会にとって必要だと思いますか？
 (強くそう思う ・ そう思う ・ あまりそう思わない ・ 全く思わない)

叩かない・怒鳴らない「ポジティブな子育て」を広げるための活動は、これからの社会にとって必要だと思いますか？

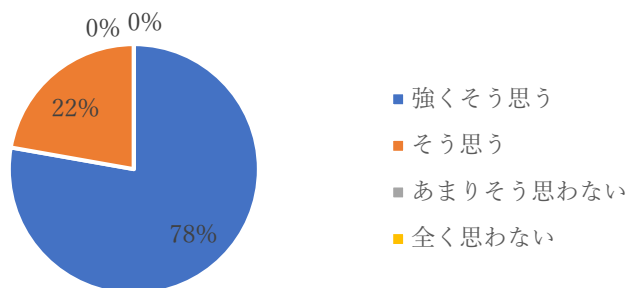


設問 4 は、回答者数全員がこれからも「ポジティブな子育て」を広げるための活動が社会にとって必要だという設問に対して、「強くそう思う」と回答した。本項目は、2 時間版実施箇所のうち、2 箇所でのみに設けられた内容であったため、回答者数は 9 人だった。

● 設問 5 :

- ⑤ 今後、「ポジティブ・ディシプリン」について、より詳しく学ぶ機会があれば参加したいと思いますか？
 (強くそう思う ・ そう思う ・ あまりそう思わない ・ 全く思わない)

今後、「ポジティブ・ディシプリン」について、より詳しく学ぶ機会があれば参加したいと思いますか？



設問 5 では、回答者の 78% が、「ポジティブ・ディシプリン」についてより詳しく学ぶ機会があれば参加したいかとの設問に対して、「強くそう思う」と回答した。残り 22% は「そう思う」と回答しており、プログラムをより詳しく知りたい参加者で全数を占めた。このことから、2 時間版実施の目的「標準プログラムへの関心を高める」は、達成されたと考えられる。なお、本項目も 2 時間版実施箇所のうち、2 箇所でのみに設けられた内容であったため、回答者は 9 人だった。

● 自由記述欄

アンケートは最後に自由記述欄を設けている。参加者から、自身の子育てにおいてポジティブ・ディシプリンの考え方が参考になるや役立つといった感想を中心に、繰り返し参加することの意義や休日開催を求める声があった。具体的な記述内容（記述の全文）は以下の通りである。

- 良いきっかけとなりました。
- とても勉強になりました。
- 子どもへの理解、声かけ、共感等、自分の考えの道すじが見えてきて、とても勉強になりました。
- 時間がない中で色々教えていただきありがとうございました。とてもわかりやすかったです。色んな角度からのア

アプローチを知ることができたのでよかったです。

- 日々の子育てでなかなかゆっくり1つの問題に向き合うことができないけれど、解決方法をより深めることができてよかった。
- 子育てのヒントになる事が多く学べた。
- 体系だっているので、自分の整理をするのに役立つかと思います。より多くの方が受講できればいいと思いました
- 子育て中は、その時々で考え方も変化がでてくると思うので、継続的定期的に何度もプログラムが受けられると良いと思う。
- 難しく感じましたが、最後の課題解決の所までやったら、なんとなく、理解できました。もっと深く学びたいと思いました。色々な人の意見を聞いたのも良かったと思います。
- 学んだことを実際活かすことが目的だと思うので学んで終わるのではなく実践していきたいです。
- 長期的な目標をしっかりと考える時間ができてよかったです。ありがとうございました。
- ファシリテーターの先生が温かくかわいかった。
- 今回は2時間だったので、自分のキャパシティについてまでは考えられなかったが、そこも考えて行きたい。
- 2hだと最後のワークで長期的な目標が自分で考えたものになると共通でディスカッションするに際して、違和感があった。
- 枠組みがいまいち理解できませんでした。
- 数年ぶりに受講しました。忘れていたことをたくさん思い出すことができました。冷静になって自分の子育てを客観視したいと思います。
- 2時間でも深い学びがあり、ぜひ今後日程等都合が合えば参加したいです。ありがとうございました。
- 平日は仕事をしているため、週末でのプログラム（標準18時間）開催をしていただけるとありがたいです。
- 月曜日以外での開催があると嬉しいです。
- 休日に開催がありましたら、ぜひ参加したいです。
- 2hでも多くの気づきと学びがありました。平日は参加が難しいのですが、機会があれば連続講座を受講してみたいです。
- 定期的に参加したいです。
- 子どもの年代によって違うので、それぞれの年代でやって頂けると嬉しいです。
- 多胎や兄弟の子育てについてケンカの仲裁や兄弟と比べないように伝えるやり方

養育者である参加者から、事務局認証2時間版に関する率直な声が寄せられた。2時間であっても、気付きや学びがあったという声があった。一方で、2時間版を実施する際にファシリテーターが留意していきたい視点も寄せられた。これらの多様な声を真摯に受け止め、各地域における標準プログラムの継続的な導入へ確実につなげていくことが期待される。

■ 事務局認証2.5時間版アンケート集計結果

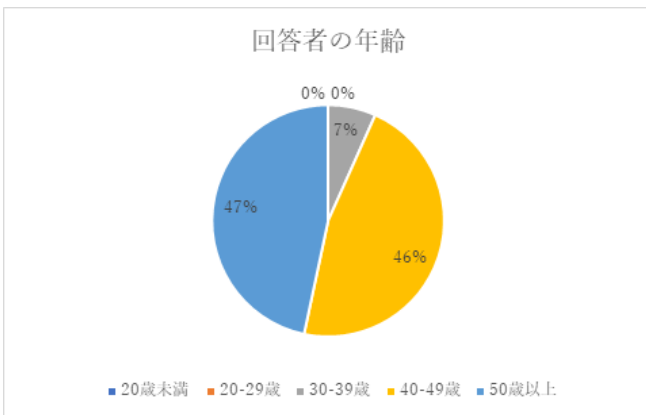
本助成事業では、事務局認証2.5時間版のファシリテーターの養成を兼ねた実地研修が実施された（2020年10月東京都B区）。当日は、2.5時間版のアンケートを通常通り実施したので、その集計結果を以下に報告する。

2.5時間版は、以下を基本として実施される（事務局発行のガイドラインより）。質問票は、**別添8**を参照。

- 目的： PDEP公式18時間版の導入を視野に入れた自治体や地域社会において、プログラムの概要を支

援者へ共有することで、標準プログラムへの関心を高める（標準プログラムが目指す養育者の行動変容を目的としないことに留意）。また、プログラムの背景や標準プログラムの実施方法などを伝える。

- 内容：日本事務局により定められた標準化されたプログラム案に基づく
- 教材：日本事務局の指定する 2.5 時間版 PPT スライド、配布資料、アンケート
- 対象：0 歳から 18 歳までの子どもを育てている養育者の支援者、行政担当者、議員など
- 時間：150 分
- 定員：最少 16 名～最大 24 名(グループワークの機能を担保するため)
- 実施者：2.5 時間版の実地研修を終えた認定プログラム・ファシリテーター、またはカントリー・トレーナー



- 回答者の年齢層 (n=15)

回答者の年齢とその人数は左記の通りである。

2.5 時間版は支援者版として開催されるが、今回は支援者の中でも、30 歳以上の経験者が大半を占めていた。

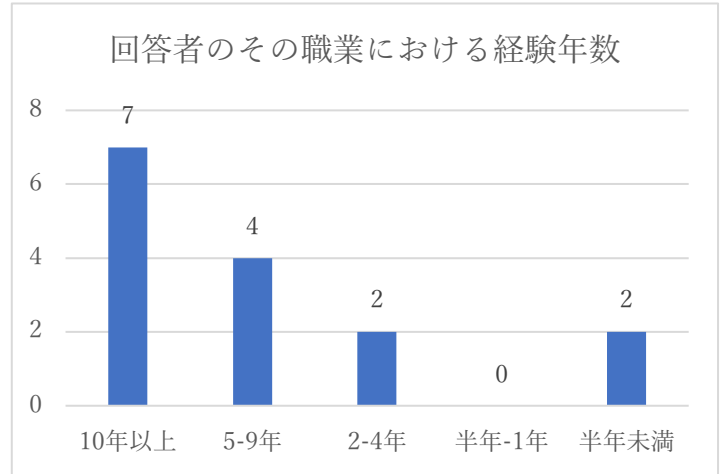
- 回答者の職業 (n=15)

支援者である参加者に、その対象者を尋ねた。今回は支援者の中でも「親や養育者に直接関わる仕事」をしている方が 53%、「子どもに直接関わる仕事」をしている方が 42%だった。残り (5%) は「その他」の回答だった。

(単位：人)

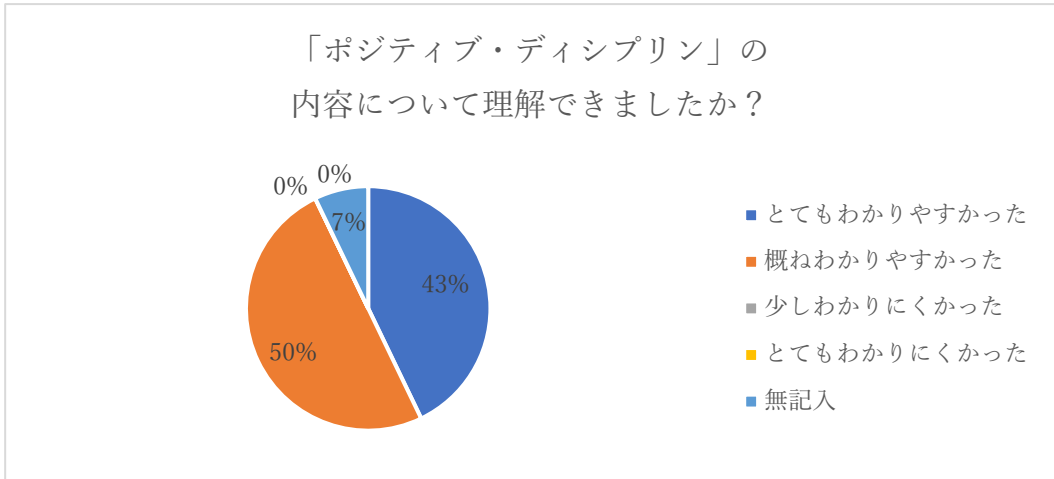
- 回答者の職業における経験年数 (n=15)

次に、回答者の職業における経験年数について聞いた。現在の仕事に就いて 5 年以上の方が 27%、10 年以上の方が 73%を占めていた。今回の参加者は、経験年数の比較的高い支援者が多かったと言える。



- 設問 1 : (n=14)

- ① 「ポジティブ・ディシプリン」の内容について理解できましたか?←
(とてもわかりやすかった・概ねわかりやすかった・少しわかりにくかった・とてもわかりにくかった)



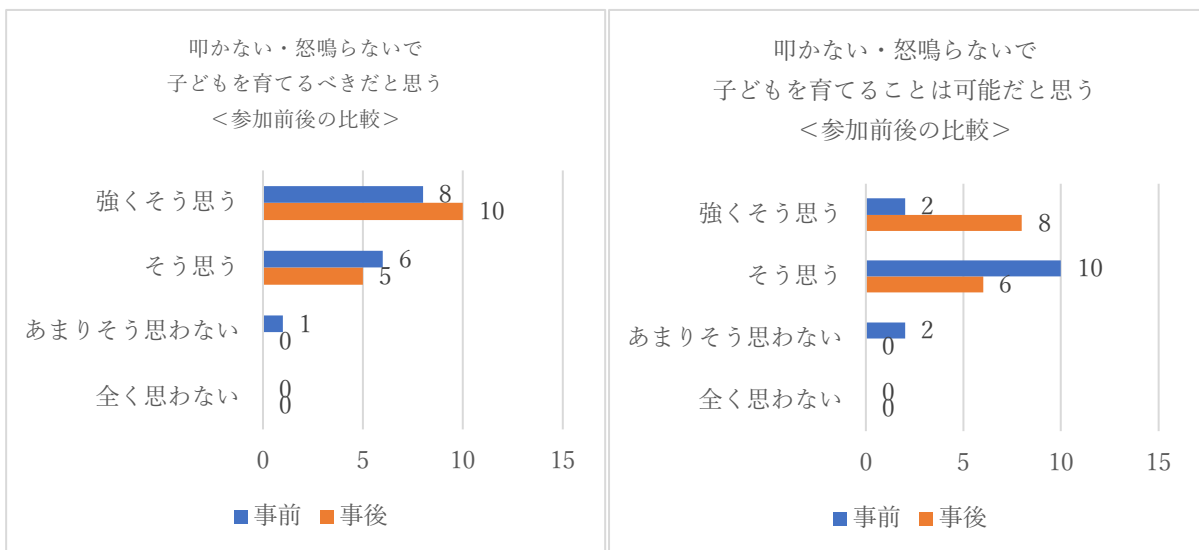
2.5時間版では、18時間かける標準プログラムを凝縮することにより、支援者にプログラムの概要を共有することを目的としている。本来、時間をかけて進めるワークを駆け足で体験する内容となっているが、「とてもわかりやすかった」「概ねわかりやすかった」の回答が93%を占めた。7%が無回答となっていることは、今後、質問票の記入欄の改善により回答漏れを防ぐことに努めたい。

● 設問2：(n=14)

② 以下の2つの設問について、プログラム参加前・参加後のあなたの考えに○をつけてください。←

2) -1 参加前のお考えについてお聞きします。←				
叩かない・怒鳴らないで 子どもを育てるべきだと思う←	強く そう思う←	そう思う←	あまり そう思わない←	全く 思わない←
叩かない・怒鳴らないで 子どもを育てることは可能だと思う←	強く そう思う←	そう思う←	あまり そう思わない←	全く 思わない←
2) -2 参加後のお考えについてお聞きします。←				
叩かない・怒鳴らないで 子どもを育てるべきだと思う←	強く そう思う←	そう思う←	あまり そう思わない←	全く 思わない←
叩かない・怒鳴らないで 子どもを育てることは可能だと思う←	強く そう思う←	そう思う←	あまり そう思わない←	全く 思わない←

(単位：人)



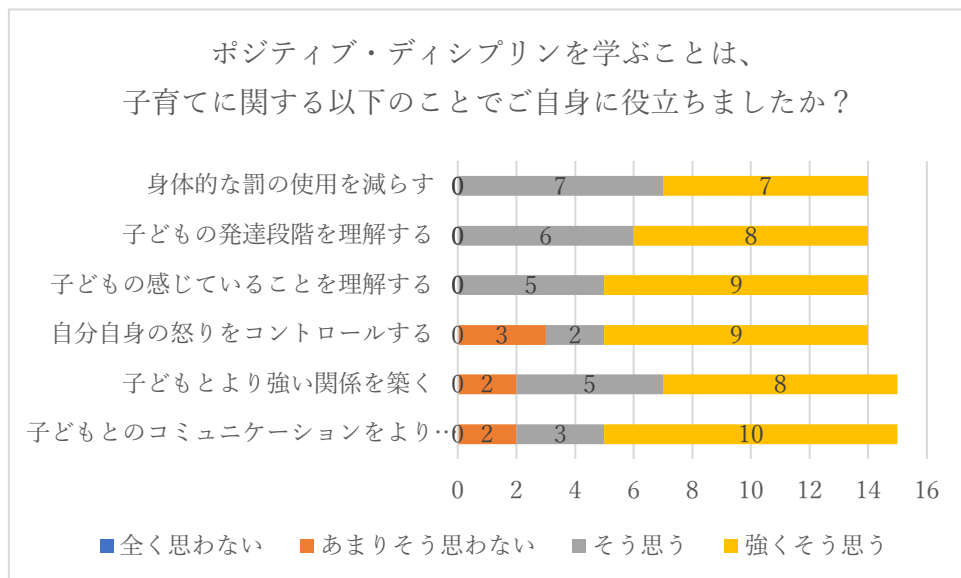
設問 2 では、事務局認証 2.5 時間版の参加前と参加後を比較した。「たたかない・怒鳴らないで子どもを育てるべきだと思う」、「たたかない・怒鳴らないで子どもを育てることは可能だと思う」の 2 問について、いずれも「強くそう思う」と「そう思う」が、参加後に回答数が増加した。また参加前に「あまりそう思わない」とした回答者が 3 人いたが、参加後には 0 人となった。この結果から、（母数が少ないため一般化は難しいことを前提としながら）2.5 時間版も、行動変容を保证することは叶わないとしても、支援者の意識変容に働きかけることを示唆していると考えられる。

● 設問 3 : (n=14)

③ 「ポジティブ・ディシプリン」を学ぶことで、子育てに関する以下のことでご自身に役立ちましたか？
 あてはまる数字に○をしてください。 1=強くそう思う, 2=そう思う, 3=あまりそう思わない, 4=全く思わない

- 身体的な罰の使用を減らす (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4)
- 子どもの発達段階を理解する (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4)
- 子どもの感じていることを理解する (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4)
- 自分自身の怒りをコントロールする (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4)
- 子どもとより強い関係を築く (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4)
- 子どもとのコミュニケーションをよりよくなる (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4)

(単位：人)

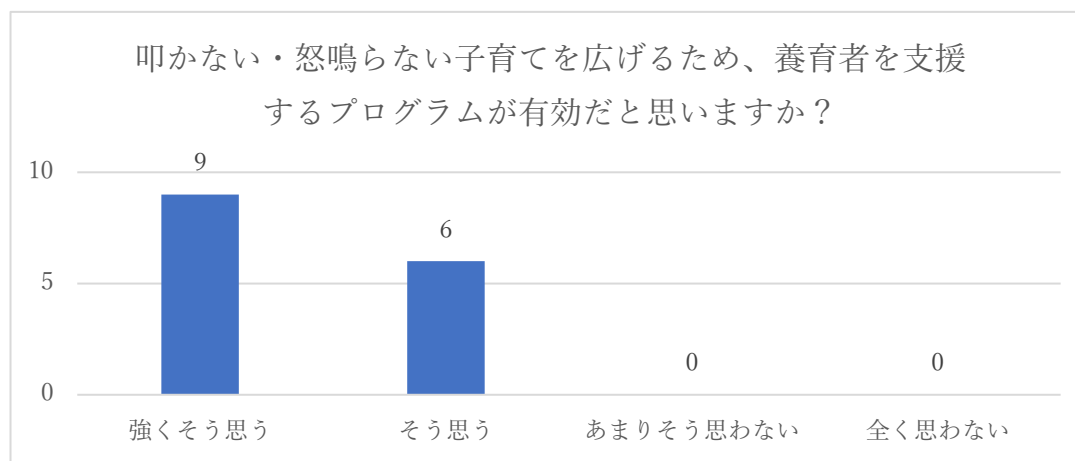


設問 3 は、標準プログラムの効果測定と同一の設問としている。養育者を対象とした事務局認証版に比べ、6 項目のうち、3 項目（身体的な罰の使用を減らす、子どもの発達段階を理解する、子どもの感じていることを理解する）では、ポジティブ・ディシプリンを学ぶことが役に立ったかとの問いに対して、「強くそう思う」「そう思う」と回答している。一方、残りの 3 項目（自分自身の怒りをコントロールする、子どもとより強い関係を築く、子どもとのコミュニケーションをより要する）では、「あまりそう思わない」とした回答者がいた。この設問は支援者である回答者が自身に役立ったか？ということを問うていることから、解釈には留意が必要と言える。回答数が増えた段階で、支援者が「ポジティブ・ディシプリンが養育者の何に役立つ」と考えるかについて、改めて検証をする必要があると言える。

● 設問 4 : (n=15)

- ④ 叩かない・怒鳴らない子育てを広げるため、養育者を支援するプログラムが有効だと思いますか？
(強くそう思う ・ そう思う ・ あまりそう思わない ・ 全く思わない)

(単位 : 人)

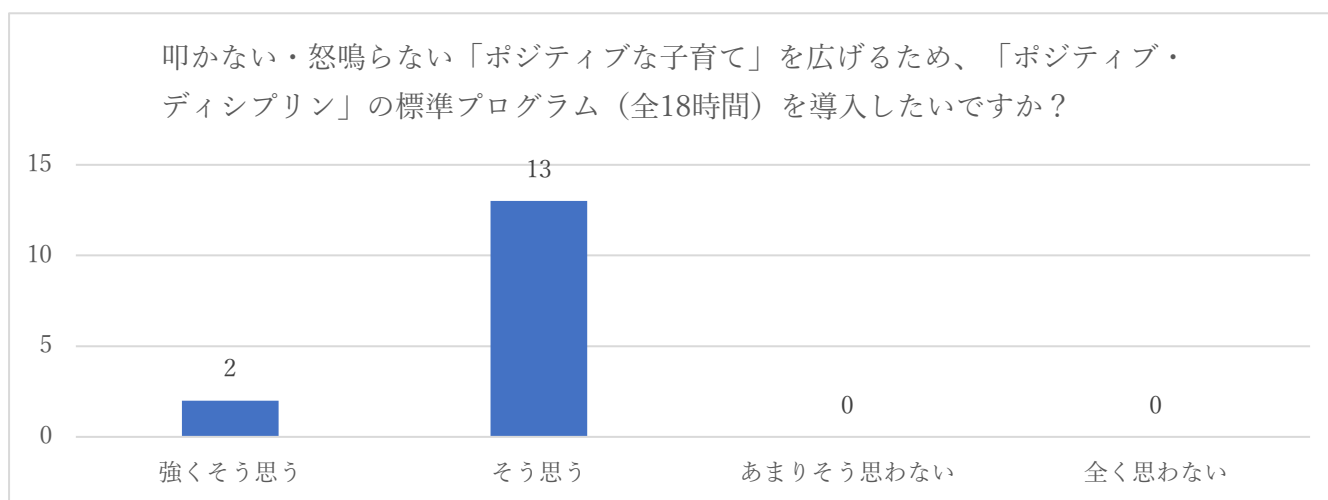


設問 4 は、「たたかない・怒鳴らない子育てを広げるために養育者を支援するプログラムが有効だと思うか」という設問に対して、60%(n=9)が「強くそう思う」、40% (n=6)が「そう思う」と回答した。全回答者が、養育者支援の有効性について同意する結果となった。

● 設問 5 : (n=15)

- ⑤ 叩かない・怒鳴らない「ポジティブな子育て」を広げるため、「ポジティブ・ディシプリン」の標準プログラム (全 18 時間) を導入したいですか？
(強くそう思う ・ そう思う ・ あまりそう思わない ・ 全く思わない)

(単位 : 人)



設問 5 は、支援者に対し「ポジティブ・ディシプリン」の標準プログラムの導入に関する関心を尋ねた。回答者 (n=15)

のうち、87%が「そう思う」と回答し、13%が「強くそう思う」と回答した。

- 設問 6 : (n=15)

- ⑥ ご自身の地域で「ポジティブ・ディシプリン」の標準プログラム（全 18 時間）を導入するとしたら、どのような調整や準備が必要になりますか？また、課題となり得ることがあれば教えてください。

次に、標準プログラムの導入に関する調整や準備に就いて尋ねた。標準プログラムの導入にあたっては、参加した支援者が感じた課題として、時間、人員、予算の確保に加え、周知方法などがあげられ、具体的な記述（回答より全文記載）は以下の通りである。

- 開催時間や場所
- コロナ対応（区のイベントの指針）と案内（広報）、費用
- 予算面
- 18 時間は少し長いので、時間が作れそうにないと思いました。
- これまで実施していた講座（今はコロナのためできていないが）もあり、それらの調整が必要と思う。
- 人員や時間の確保が難しそうかなと思います。
- 乳幼児を育てている保護者が参加できるように託児とセットにする
- 活動をもっと知ってもらうための事前の広報
- 0 歳児の多い施設なので、もう少し大きな親子が来る施設にしていきたい。（0 歳途中で保育園入所）
- 人に厳しくあたると、あとで必ず自分に返って来ます。子どもも大きくなり、自分も歳を取ったので、頭に来たり、怒鳴ったりすることもなくなりました。まだ、お子さんが小さい方にうまく伝えるためにこのようなプログラムは良いと思いました。

参加した支援者からは現実的な課題が具体的に挙げられた。これらの結果を受け止め、今後の標準プログラム導入へ向けた企画・立案が期待される。

- 自由記述欄

アンケートは最後に自由記述欄を設けている。参加者から、有意義な時間となったことや参加者自身の子育ての振り返りとなったこと、課題点などについてあげられ、記述の詳細（回答より全文記載）は以下の通りである。

- まずは広く知られると良いですね！！
- 自分の子育てでも振り返り、あてはまる時間にもなりました。また、（団体名）の利用者さんからのご相談にのる際の知恵として大切、素晴らしいお話が聞けました。ありがとう御座いました！子供の権利がわからない親も多いと思うので、ぜひ広めていただきたいです。「養育者はその子の専門家」ってとても良い言葉ですね。
- とても楽しく参加させていただきました。子ども（19 歳長男）が小さい頃に学べればよかったです。
- 短期的目標にとらわれがちな日を送っていますが、長期的目標を目指すようにしていきたいと思いました。
- 「枠組み」のところが少しわかりにくかった。定義は？今日は 2.5 時間のプログラムだったので、私自身もう少し深く学ぶ事が必要だと思った。しかし、親向けは 2 時間のプログラムでは今日のプログラム以上についていけないのではないかと危惧する。しかし、親自身も存在を肯定する気持ちになれそう。

- 以前はたたくことも肯定されていたが、今は、虐待に直結されてしまうので、ではどうしたらいいのか教えて欲しい人はたくさんいると思う。私も子育て中に聞きたいプログラムでした。
- たたかない怒鳴らないためのロールプレイをたくさん取り入れて欲しい。
- 内容としては子育て支援者より一般向けと思う。普段こういう講座を聞かない親に参加してもらえる仕掛けが必要かと思う。（とても難しいけど）

支援者である参加者からは、事務局認証 2 時間が果たせる目的の限界について示唆する声が寄せられた。ポジティブ・ディシプリンのプログラムは養育者を対象として設計されていることや、2 時間で養育者が内容をどこまで理解できるかといった危惧の声もあった。これらの声について真摯に受け止めて、標準プログラムの導入へ確実につなげていくことが期待される。同時に、支援者の方々からの一定の評価の声もきちんと受け止め、今後の事務局認証 2.5 時間版の実施を担うファシリテーター養成に活用していく。

以上